

関西四大学「薬物に関する意識調査」集計結果 報告書

2017年10月

近年、大学生の大麻等不正薬物の所持・乱用による事件事故が相次いで発生しており、薬物汚染が大きな社会問題に発展しています。警察庁組織犯罪対策部組織犯罪対策企画課発表の「平成28年における組織犯罪の情勢（第3章：薬物・銃器情勢）」によると、薬物事犯検挙人員はほぼ前年並みですが、2009年から年々減少を続けていた大麻事犯の検挙人員が、2014年から増加に転じ、2015年、2016年とさらなる増加をみせています。2016年における大麻事犯の検挙人員は全薬物事犯の18.9%（2015年度は15.5%）を占め、覚せい剤事犯に次ぐ薬物事犯として高比率で推移しています。また、20歳代以下の若年層の検挙人員は依然として高い構成比率で推移しており、その多くが初犯者であるとされています（2009年の大学生大麻事犯検挙人員は81名であり、そこから毎年減少し、2013年には23名となりましたが、2014年から増加に転じ2016年には40名となりました）。

また、昨今では乱用した者が重篤な症状を起こして救急搬送されたり、重大な交通事故を引き起こしたりするなど社会問題化し、「危険ドラッグ」と総称された薬物について、政府は2014年4月に薬事法を改正（「医薬品医療機器法」）し、対策を強化しています。その結果、危険ドラッグの使用が原因と疑われる死亡事案が大幅に減少するなど、その対策に一定の効果が上がっている一方、インターネットを利用して密売されるなど流通ルートが潜在化しており、今後の動向を引き続き注視する必要があります。

こうした状況の下で、薬物に関する教育活動が各大学において喫緊の課題となっておりますが、2009年3月7日、関西四大学は、薬物乱用防止に関する共同声明を発表しました。健康で充実したキャンパスライフを学生に保障するとともに、より広い視点に立ち、安全・安心の社会を実現するための教育・研究、そして社会的な活動が大学の使命ととらえ、薬物乱用防止のための恒常的・経常的かつ組織的な啓発活動を行い、広く社会に向けてその活動を展開していくことを宣言しました。

その具体策として、共同のアクションプランを企画し、共同声明の発表以降、3つのアクション「委員会の開催・設置」、「教育・調査活動」、「広報活動」を柱に各大学で様々な取り組みを実施してきました。「関西四大学薬物乱用防止連絡会」の設置・開催をはじめ、学生参加のキャンペーンを行い、さらに講演会も開催してきました。

こうした活動の一つとして、2009年10月から四大学共同の「薬物に関する意識調査」を行ってきました。同調査は入学当初の新入生に対し実施していることから、大学入学前、中学・高校等における啓発活動の成果が反映されていると考えています。この調査を継続して実施することにより、学生の薬物に対する意識と態度等、若年層における薬物事情の変遷を明らかにし、さらなる薬物乱用防止策の企画立案に役立てるだけでなく、社会に対して警鐘を鳴らすことができるのではないかと考えています。質問項目については、大麻が中心であったものから2015年に「危険ドラッグ」を含む、危険な薬物全般について調査する内容に変更しており、今回も同様に、四大学の入学直後の新生を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、新生たちが大学入学以前から薬物乱用防止に関する教育を受け、さまざまな形で薬物についての情報に接しているほか、引き続き、ごく少数であっても薬物に接触する危険性があることが明らかになりました。

関西四大学では、2009年10月の報告書から続くこの調査結果から目をそらすことなく、今後さらに慎重に検討を加え、引き続き薬物乱用防止のための教育活動を展開していきます。加えて、他の教育機関の諸活動においても今回の調査結果が役立つことを願っています。

2017年10月

関西大学学長	芝井 敬司
関西学院大学学長	村田 治
同志社大学学長	松岡 敬
立命館大学学長	吉田美喜夫

本調査では、昨今流通する違法薬物が多様化している実情に鑑み「大麻」や「危険ドラッグ」といった個別の薬物について聞くのではなく、質問2で示した薬物を「これらの薬物」と総称した上で意識調査を実施している。

## I 調査対象

対象者数 : 2017年度入学生 27,744名 (関西四大学合計人数)  
 実施期間 : 各大学により定められた期間 (2017年4月)  
 調査方法 : 紙媒体  
 回答数 (率) : 24,620名 (88.7%)

## II 集計結果

各質問への回答状況は、次ページ以降のグラフ及び集計表のとおりである。

主な回答の集計結果について

◇質問1 薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○)

<回答>

非常に関心がある	2.2%	前年度比-0.6%
ある程度関心がある	29.0%	前年度比-3.3%
どちらともいえない	24.9%	前年度比+0.8%
あまり関心がない	16.6%	前年度比+1.6%
ほとんど関心がない	27.0%	前年度比+1.6%

「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と回答した層は2009年から2014年まで減少傾向、2015・2016年度は増加したが、本年度は減少に転じた。一方、「あまり関心がない」「ほとんど関心がない」と回答した層は昨年度まで減少傾向であったが、本年度は増加し、薬物問題への関心が若干薄くなっていることが見受けられる。

◇質問2 次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可)

<回答>

有機溶剤 (シンナー、トルエンなど)	77.1%	前年度比+0.3%
覚せい剤 (スピード、エスなど)	91.5%	前年度比+0.4%
大麻 (マリファナ、ハッシュシュなど)	92.4%	前年度比+0.1%
コカイン	88.2%	前年度比+4.0%
あへん類 (ヘロインなど)	64.6%	前年度比-1.3%
LSD	15.9%	前年度比-0.5%
MDMA (エクスタシーなど)	61.6%	前年度比-6.4%
いわゆる危険ドラッグ (脱法ハーブなど)	71.4%	前年度比-2.1%
知っているものはない	2.8%	前年度比-0.2%

◇質問1-1 これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか (1つに○)

<回答・抜粋>

どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない。	90.7%	前年度比-0.8%
他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である。	6.7%	前年度比+0.4%

依然として、他人に迷惑を掛けなければ、使用は個人の自由であると考えている学生が一定数存在している。

◇質問13 これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることがこれまでにありましたか。(1つに○)

<回答>

誘われたり、勧められたことはない	91.8%	前年度比-2.1%
購入を勧められたことがある	0.4%	前年度比±0
使用を誘われたことがある	1.1%	前年度比+0.1%
わからない	3.7%	前年度比+0.4%

◇質問15 周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○)

<回答>

いない	84.8%	前年度比+0.4%
いる(いた)	3.4%	前年度比+0.2%
わからない	9.4%	前年度比+0.1%

◇質問16 【質問15で「2」に○をつけた人だけお答えください】どの薬物でしたか。(複数回答可)

<回答>

有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	21.2%	前年度比+6.7%
覚せい剤(スピード、エスなど)	9.6%	前年度比+2.3%
大麻(マリファナ、ハッシッシュなど)	39.8%	前年度比+16.4%
麻薬	3.4%	前年度比+0.6%
コカイン	7.6%	前年度比+3.3%
あへん類(ヘロインなど)	2.0%	前年度比+0.7%
LSD	2.7%	前年度比+1.3%
MDMA(エクスタシーなど)	2.9%	前年度比+1.0%
いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	11.1%	前年度比+2.9%
わからない	61.6%	前年度比+26.7%

依然として大麻の比率が高く、昨年度と比べても大きく増加していることがうかがえる。また、薬物らしきものを所持使用していることを認識している者のうち6割が、どの薬物か分からないと状況である。

◇質問18 これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可)

<回答>

警察の相談窓口	22.0%	前年度比+0.5%
行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)	9.5%	前年度比+0.5%
医療機関の相談窓口	15.1%	前年度比-0.5%
民間の支援団体の相談窓口	7.3%	前年度比-0.2%
知らない	61.1%	前年度比+1.2%

薬物に関する相談窓口について、ほぼ6割の学生が知らないと回答している。前年度と比較すると、警察、行政機関の相談窓口の認知度が若干増加しているが、依然として少ない状況である。大学としてもこれらに関し情報発信を行っていく必要があると考える。

◇質問 1 9 あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数回答可)

<回答>

薬物乱用による健康被害情報	47.4%	前年度比+0.7%
薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	34.6%	前年度比+0.9%
国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報	11.9%	前年度比+0.5%
医療機関や民間支援団体の取り組み情報	9.8%	前年度比±0
特になし	24.9%	前年度比±0

◇質問 2 1 薬事法の一部改正（平成 26 年 4 月 1 日施行）により、危険ドラッグと称される薬物や商品（脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど）の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。（1 つに○）

<回答>

知っている	65.0%	前年度比-0.6%
知らなかった	29.5%	前年度比+1.8%

「知っている」と答えた学生が 6 割強にとどまっており、危険ドラッグに対する正しい知識を更に啓発していく必要がうかがえる。

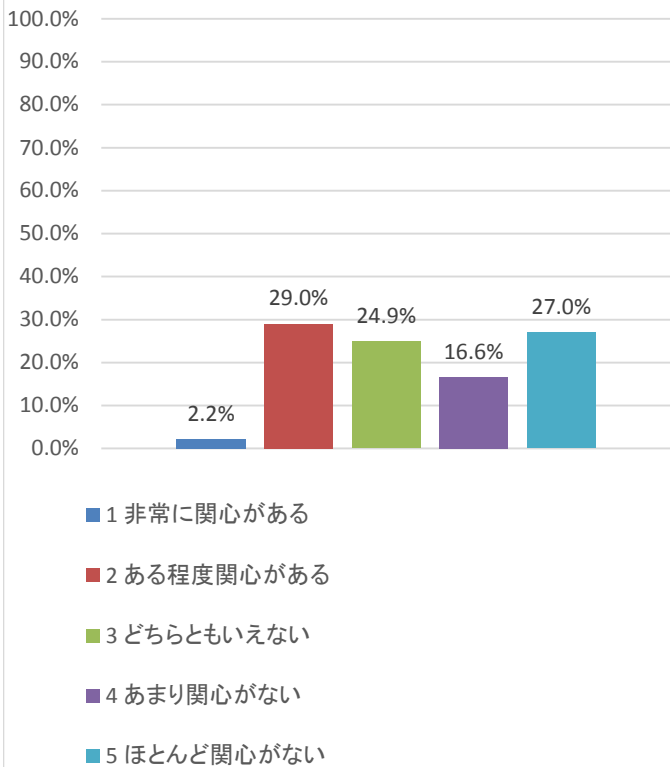
上記から、ある程度の学生は、薬物乱用問題について関心をもっている一方で、薬物事犯の頻発・常態化による影響もあるかと思われるが、注意・関心が薄れている層も一定増えてきていることがわかる。そのような現状の中で、使用については個人の自由であると捉えている学生や、周囲に薬物を所持したり、使用したりしている学生を知っている学生が一定数存在することが分かってきた。

また、危険ドラッグと称される薬物や薬品の所持・利用により罰せられることを知らない学生や、様々な相談機関の存在を知らない学生が増加している結果からは、薬物乱用防止の観点から必要な知識や意識が新入生には不足していることが読み取れるとともに、質問 1 9 の結果は、学生に訴求力がある啓発活動を大学で策定する上での良い判断材料となっている。

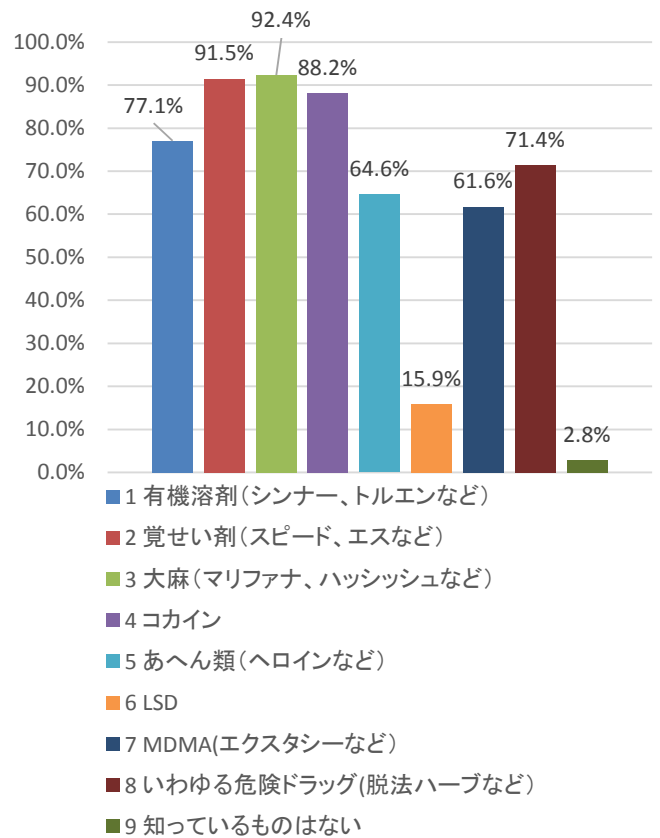
本結果から、薬物乱用問題に関し、社会的にどのような話題が取り上げられ、学生はどのような情報を得ているのか、その情報現や内容を分析し、さらに現在の学生に不足している知識を把握することで、各大学における効果的な啓発方法を検討していく必要があると考える。

2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

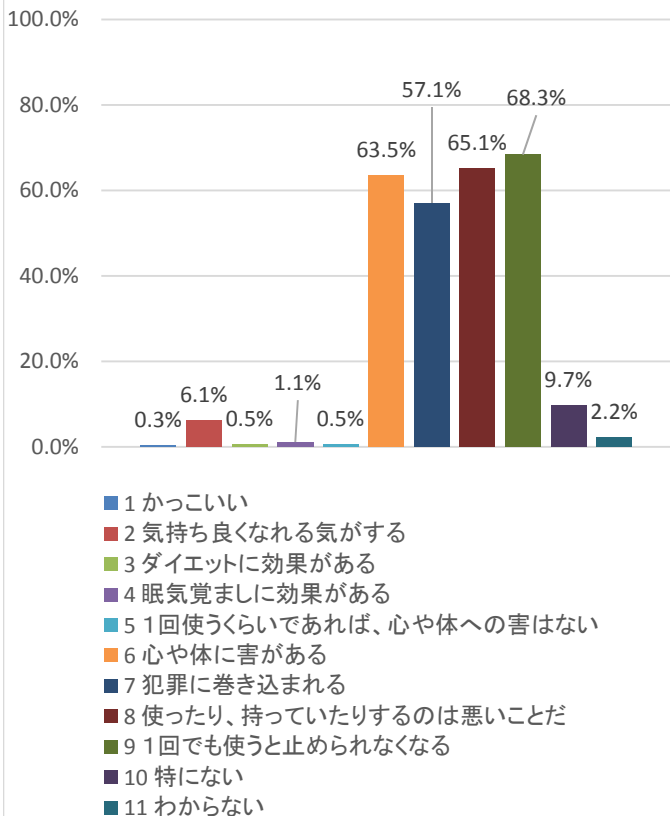
共通質問1 薬物乱用問題について関心がありますか。(一つに○) N=24620



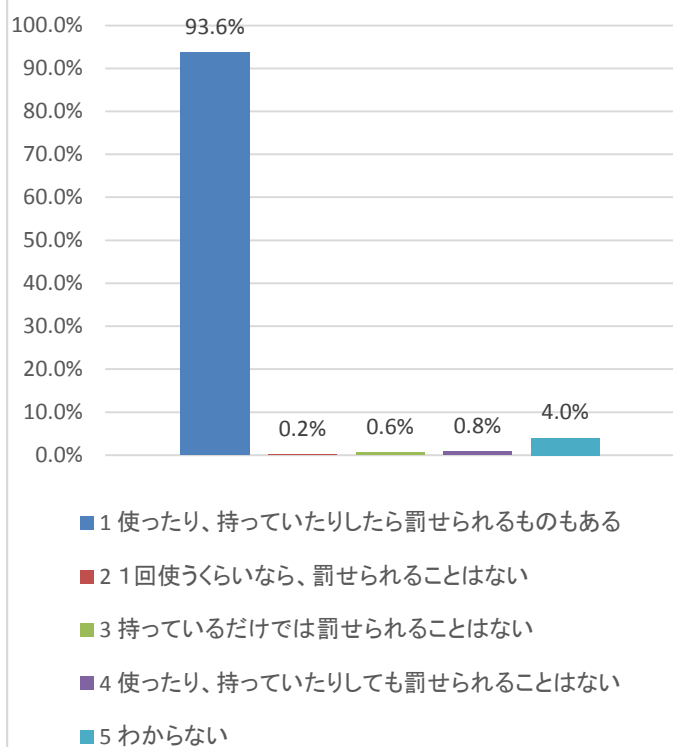
共通質問2 次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可) N=24620



共通質問3 これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数回答可) N=24620

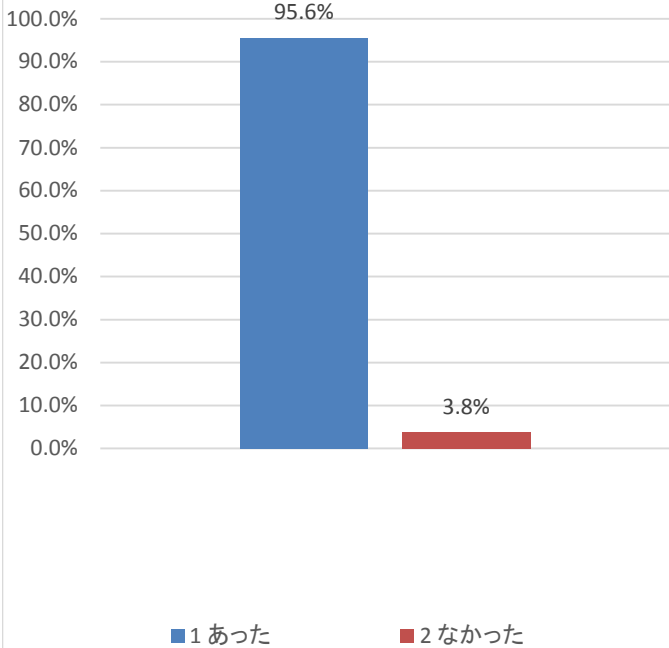


共通質問4 これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、どうなるとお思いますか。(一つに○) N=24620

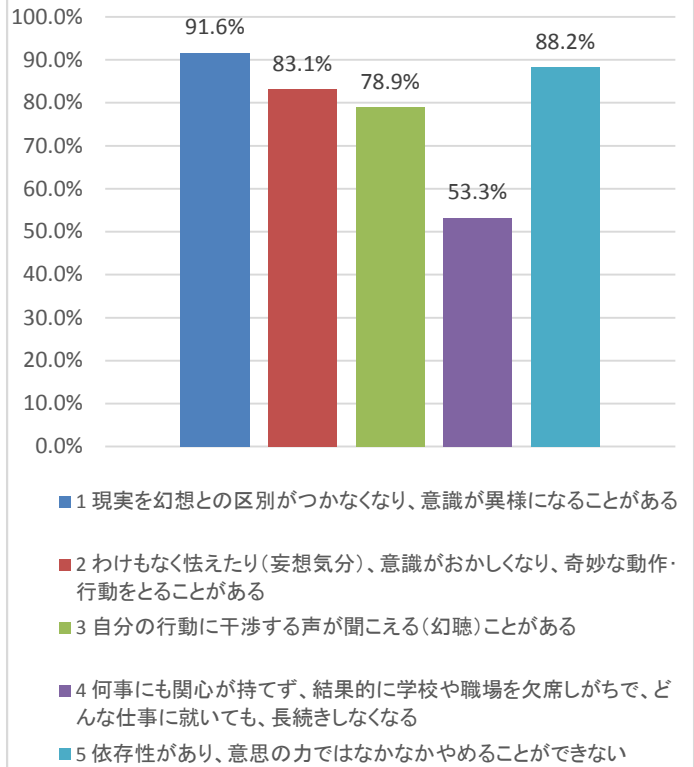


2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

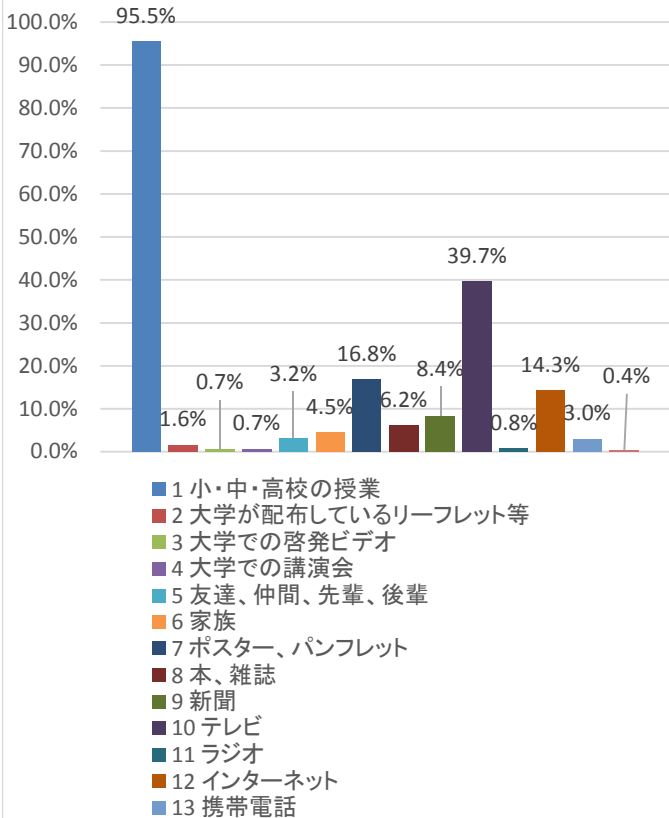
共通質問5 これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありましたか。(どちらかに○) N=24620



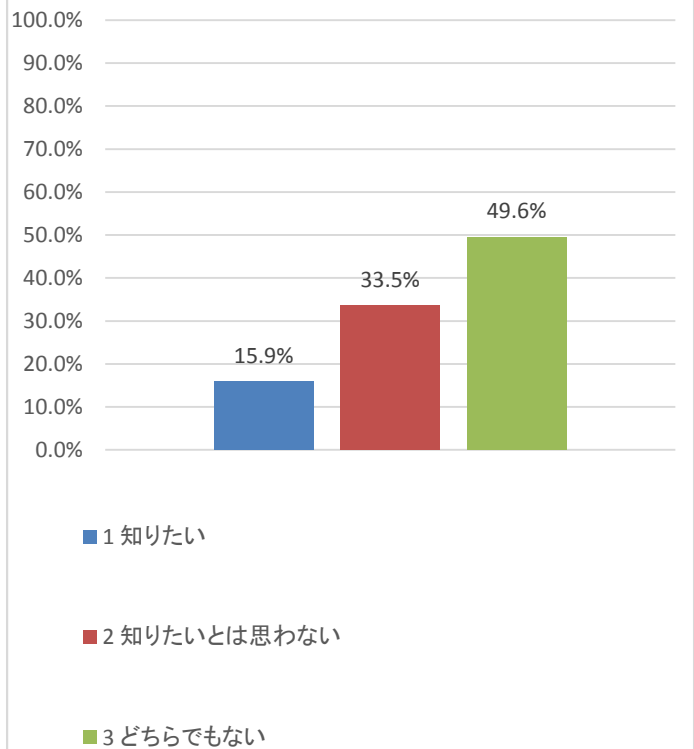
共通質問6 薬物を使った場合、次のようになることがあるのを知っていましたか。(複数回答可) N=24620



共通質問7 これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数回答可) N=24620

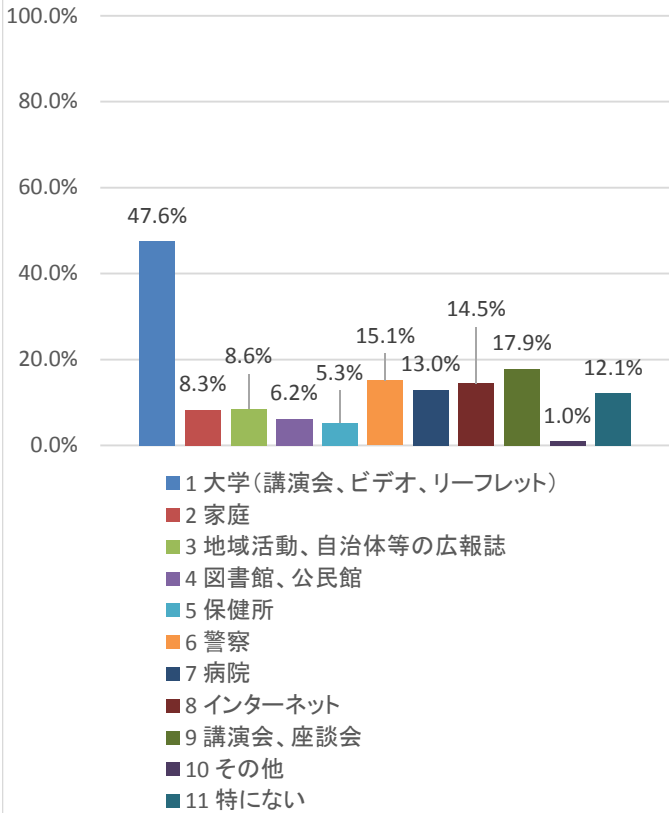


共通質問8 これらの薬物を使うことのこわさ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。(一つに○) N=24620

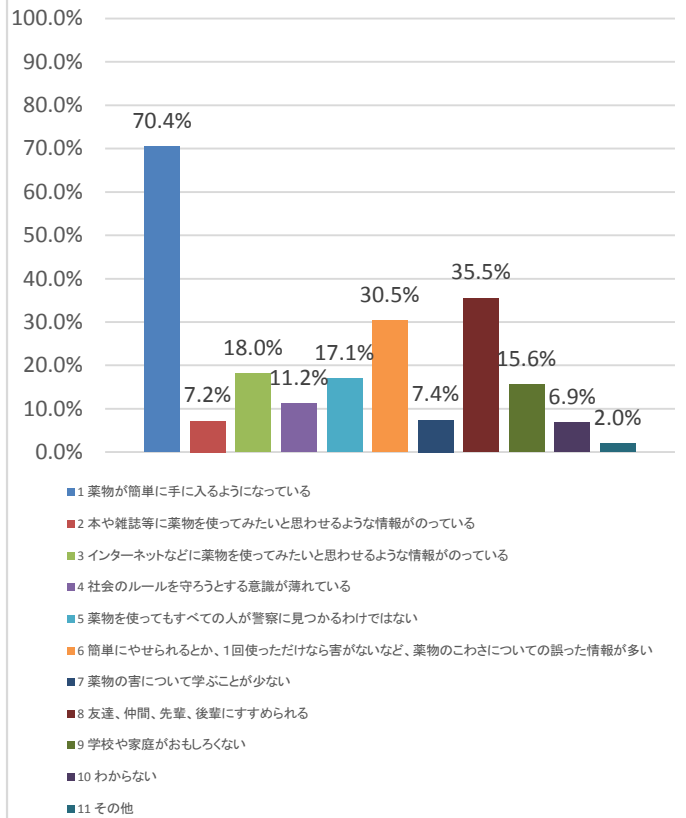


2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

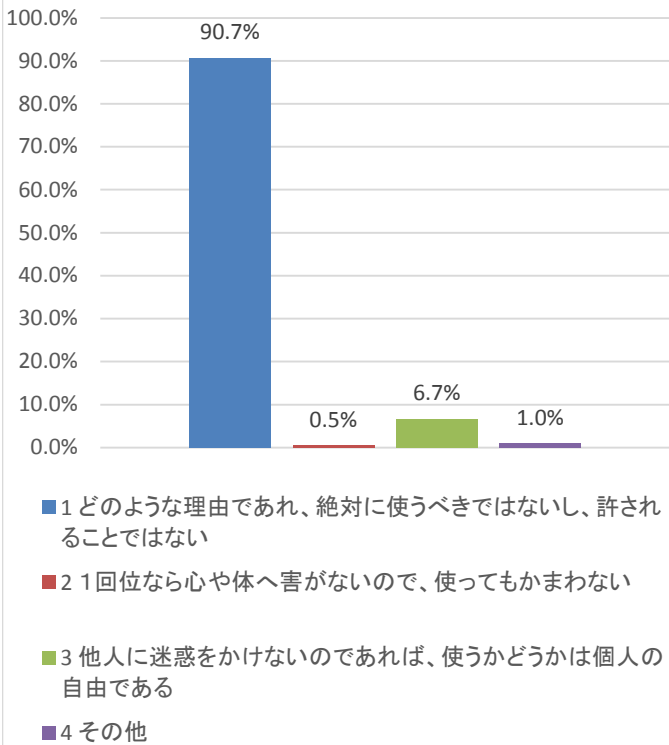
共通質問9 これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数回答可) N=24620



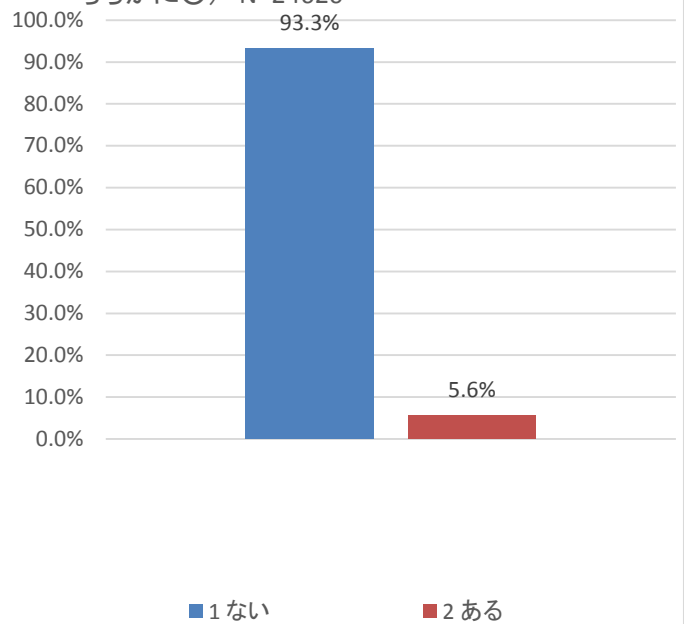
共通質問10 これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思いますか。(複数回答可) N=24620



共通質問11 これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(1つに○) N=24620



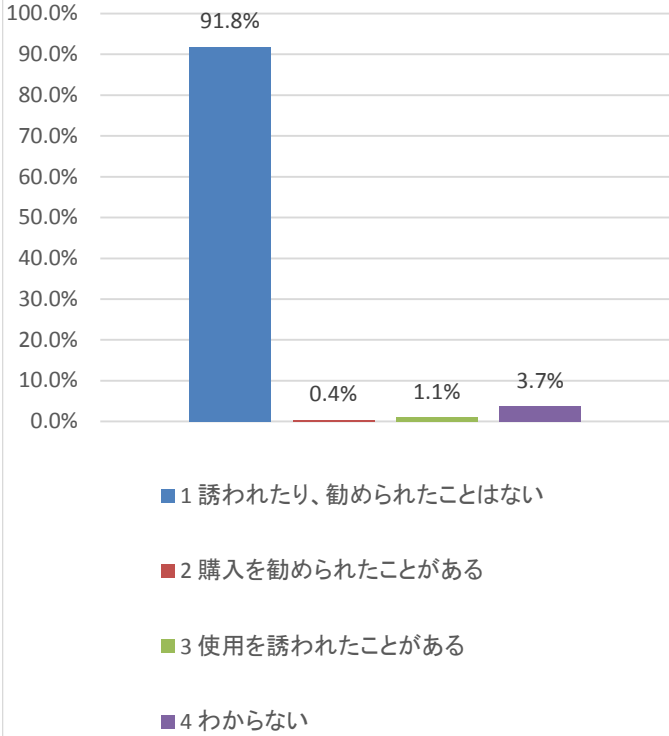
共通質問12 これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。<テレビ、映画、報道等で見たものを除きます>(どちらかに○) N=24620



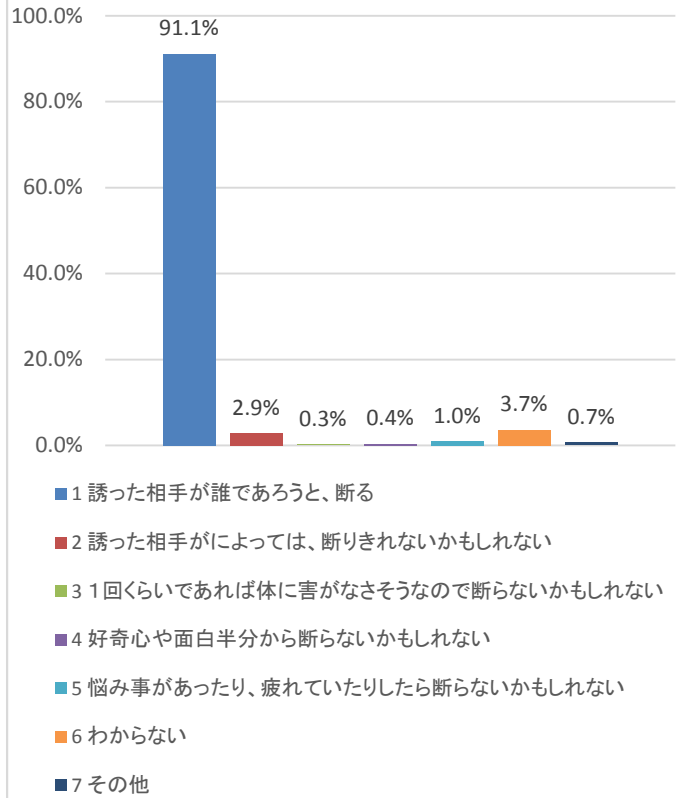


2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

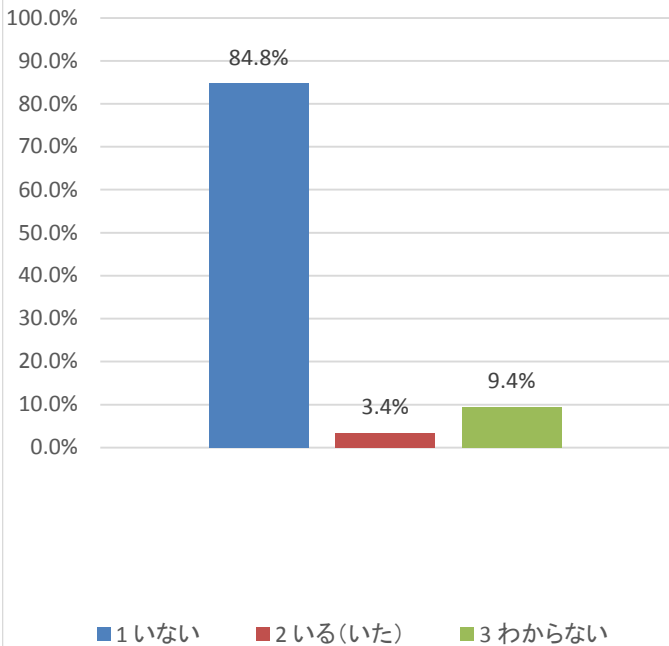
共通質問13 これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(一つに○)  
N=24620



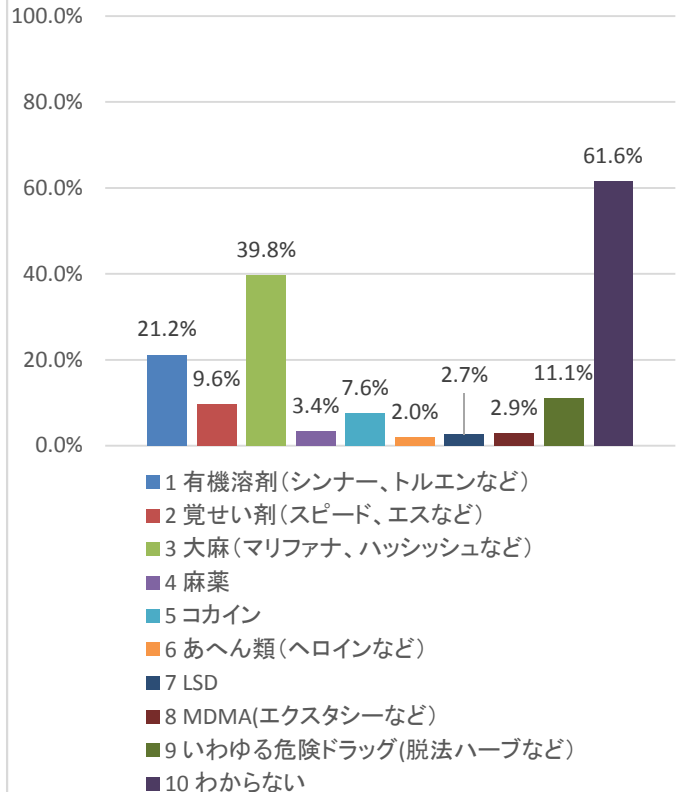
共通質問14 これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数回答可) N=24567



共通質問15 周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(一つに○) N=24620

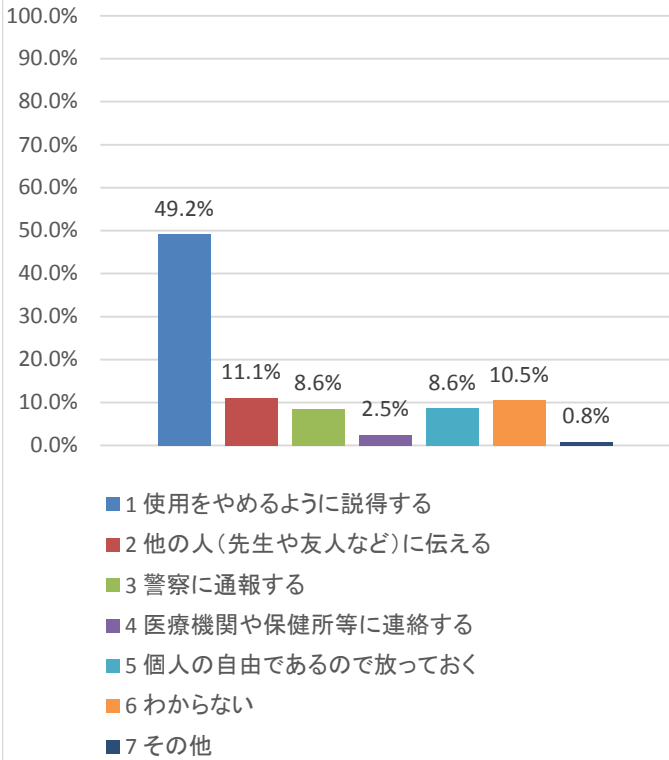


【共通質問15で「2」に○をつけた人だけお答えください】  
共通質問16 どの薬物でしたか。(複数回答可) N=830

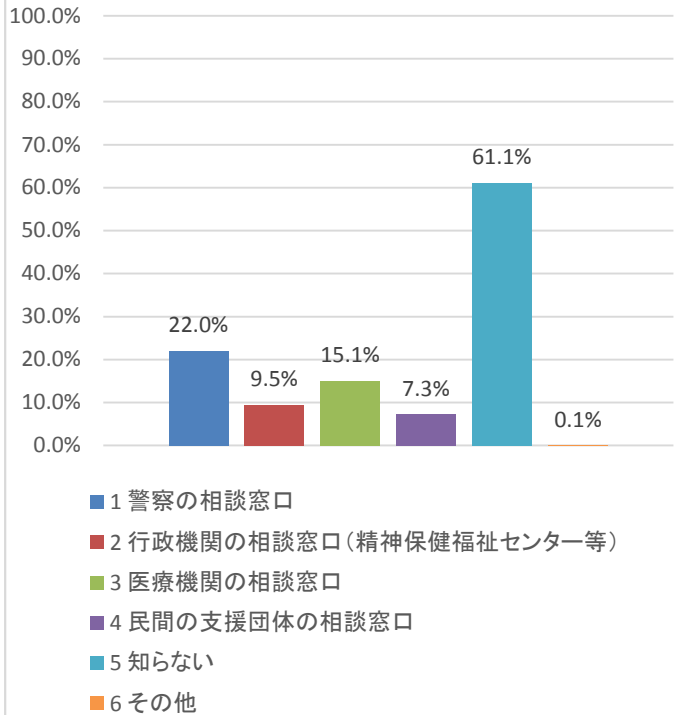


2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

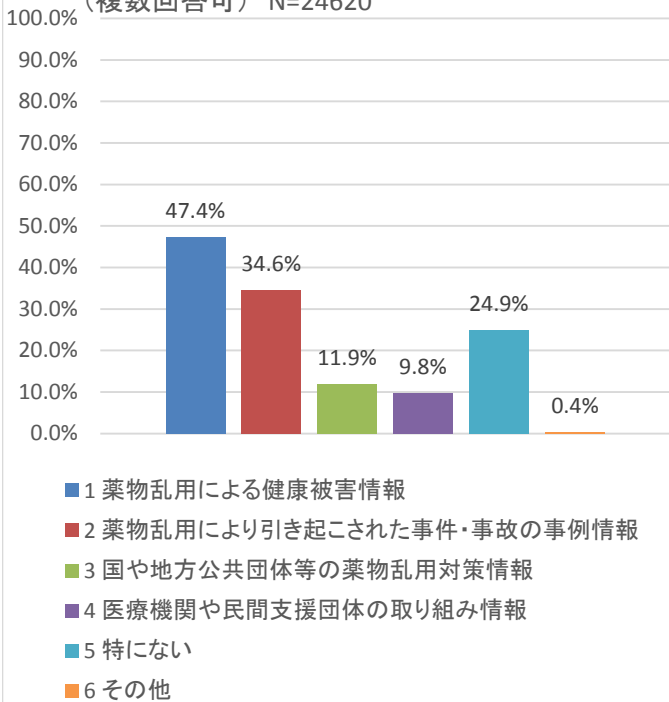
共通質問17 もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。(一つに○) N=24620



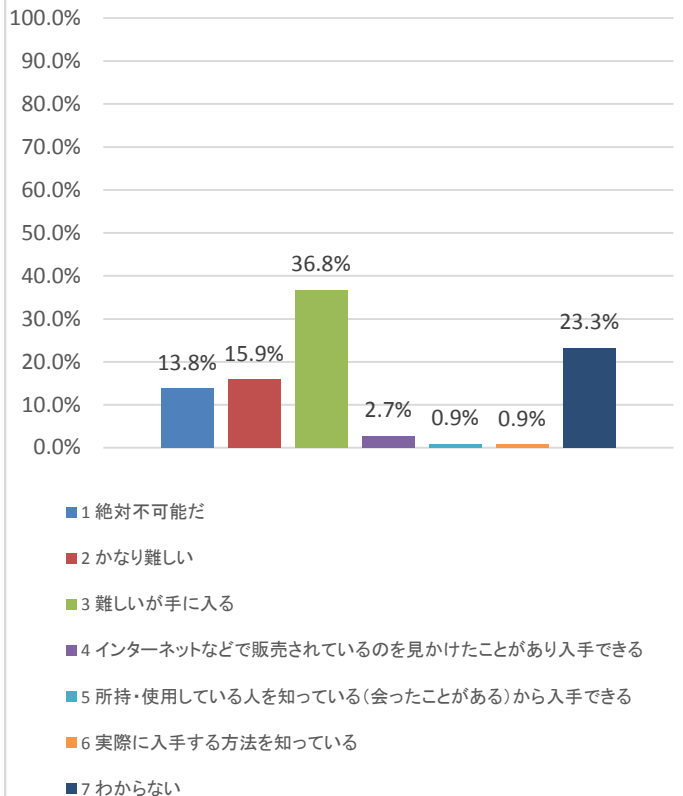
共通質問18 これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可) N=24620



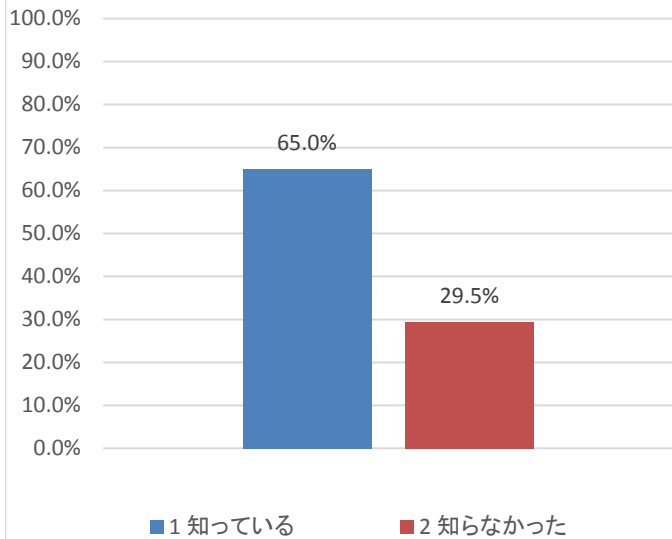
共通質問19 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報はなんですか。(複数回答可) N=24620



共通質問20 これらの薬物を手に入れることができると思いますか。(一つに○) N=24620



共通質問21 薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(一つに○) N=24620



共通質問1:薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	非常に関心がある	533	2.2%	2.2%
2	ある程度関心がある	7,145	29.0%	29.1%
3	どちらともいえない	6,132	24.9%	25.0%
4	あまり関心がない	4,078	16.6%	16.6%
5	ほとんど関心がない	6,640	27.0%	27.1%
	不明	92	0.4%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,528

共通質問2:次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	18,979	77.1%	-
2	覚せい剤(スピード、エスなど)	22,516	91.5%	-
3	大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	22,737	92.4%	-
4	コカイン	21,703	88.2%	-
5	あへん類(ヘロインなど)	15,893	64.6%	-
6	LSD	3,912	15.9%	-
7	MDMA(エクスタシーなど)	15,175	61.6%	-
8	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	17,584	71.4%	-
9	知っているものはない	701	2.8%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

【次の質問以降は共通質問2であげた薬物についてお聞きます。】

共通質問3:これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	かっこいい	80	0.3%	-
2	気持ち良くなれる気がする	1,497	6.1%	-
3	ダイエットに効果がある	118	0.5%	-
4	眠気覚ましに効果がある	271	1.1%	-
5	1回使うくらいであれば、心や体への害はない	123	0.5%	-
6	心や体に害がある	15,625	63.5%	-
7	犯罪に巻き込まれる	14,051	57.1%	-
8	使ったり、持っていたりするの悪いことだ	16,038	65.1%	-
9	1回でも使うと止められなくなる	16,827	68.3%	-
10	特にない	2,390	9.7%	-
11	わからない	545	2.2%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

共通質問4:これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、どうなるとお思いますか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	使ったり、持っていたりしたら罰せられるものもある	23,047	93.6%	94.3%
2	1回使うくらいなら、罰せられることはない	51	0.2%	0.2%
3	持っているだけでは罰せられることはない	159	0.6%	0.7%
4	使ったり、持っていたりしても罰せられることはない	197	0.8%	0.8%
5	わからない	988	4.0%	4.0%
	不明	178	0.7%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,442

共通質問5:これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありましたか。(どちらかに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	あった	23,532	95.6%	96.2%
2	なかった	937	3.8%	3.8%
	不明	151	0.6%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,469

共通質問6:薬物を使った場合、次のようになることがあるのを知っていましたか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	現実を幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある	22,546	91.6%	-
2	わけもなく怯えたり(妄想気分)、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある	20,469	83.1%	-
3	自分の行動に干渉する声が聞こえる(幻聴)ことがある	19,434	78.9%	-
4	何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる	13,117	53.3%	-
5	依存性があり、意思の力ではなかなかやめることができない	21,718	88.2%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

## 2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問7:これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	小・中・高校の授業	23,510	95.5%	-
2	大学が配布しているリーフレット等	386	1.6%	-
3	大学での啓発ビデオ	166	0.7%	-
4	大学での講演会	177	0.7%	-
5	友達、仲間、先輩、後輩	788	3.2%	-
6	家族	1,120	4.5%	-
7	ポスター、パンフレット	4,128	16.8%	-
8	本、雑誌	1,537	6.2%	-
9	新聞	2,064	8.4%	-
10	テレビ	9,765	39.7%	-
11	ラジオ	190	0.8%	-
12	インターネット	3,518	14.3%	-
13	携帯電話	742	3.0%	-
14	その他	98	0.4%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

共通質問8:これらの薬物を使うことのこわさ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	知りたい	3,921	15.9%	16.1%
2	知りたいとは思わない	8,250	33.5%	33.9%
3	どちらでもない	12,200	49.6%	50.1%
4	不明	249	1.0%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,371

共通質問9:これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	大学(講演会、ビデオ、リーフレット)	11,708	47.6%	-
2	家庭	2,041	8.3%	-
3	地域活動、自治体等の広報誌	2,114	8.6%	-
4	図書館、公民館	1,526	6.2%	-
5	保健所	1,299	5.3%	-
6	警察	3,729	15.1%	-
7	病院	3,204	13.0%	-
8	インターネット	3,559	14.5%	-
9	講演会、座談会	4,410	17.9%	-
10	その他	252	1.0%	-
11	特になし	2,988	12.1%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

共通質問10:これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思えますか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	薬物が簡単に手に入るようになっている	17,340	70.4%	-
2	本や雑誌等に薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている	1,773	7.2%	-
3	インターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている	4,435	18.0%	-
4	社会のルールを守ろうとする意識が薄れている	2,746	11.2%	-
5	薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない	4,210	17.1%	-
6	簡単にやせられるとか、1回使っただけなら害がないなど、薬物のこわさについての誤った情報が多い	7,504	30.5%	-
7	薬物の害について学ぶことが少ない	1,818	7.4%	-
8	友達、仲間、先輩、後輩にすすめられる	8,752	35.5%	-
9	学校や家庭がおもしろくない	3,840	15.6%	-
10	わからない	1,700	6.9%	-
11	その他	498	2.0%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

共通質問11:これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(一つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない	22,338	90.7%	91.8%
2	1回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない	124	0.5%	0.5%
3	他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である	1,644	6.7%	6.8%
4	その他	238	1.0%	1.0%
5	不明	276	1.1%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,344

2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問12:これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。

<テレビ、映画、報道等で見たものは除きます>(どちらかに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	ない	22,969	93.3%	94.3%
2	ある	1,388	5.6%	5.7%
3	不明	263	1.1%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,357

共通質問13:これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	誘われたり、勧められたことはない	22,599	91.8%	94.6%
2	購入を勧められたことがある	109	0.4%	0.5%
3	使用を誘われたことがある	259	1.1%	1.1%
4	わからない	914	3.7%	3.8%
5	不明	739	3.0%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	23,881

共通質問14:これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	誘った相手が誰であろうと、断る	22,376	91.1%	-
2	誘った相手がによっては、断りきれないかもしれない	705	2.9%	-
3	1回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない	65	0.3%	-
4	好奇心や面白半分から断らないかもしれない	105	0.4%	-
5	悩み事があったり、疲れていたりしたら断らないかもしれない	237	1.0%	-
6	わからない	904	3.7%	-
7	その他	175	0.7%	-
	N(%ベース)	24,567	100.0%	

共通質問15:周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	いない	20,868	84.8%	86.9%
2	いる(いた)	830	3.4%	3.5%
3	わからない	2,318	9.4%	9.7%
4	不明	604	2.5%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	24,016

【共通質問15で「2」に○をつけた人だけお答えください】

共通質問16:どの薬物でしたか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	176	21.2%	-
2	覚せい剤(スピード、エスなど)	80	9.6%	-
3	大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	330	39.8%	-
4	麻薬	28	3.4%	-
5	コカイン	63	7.6%	-
6	あへん類(ヘロインなど)	17	2.0%	-
7	LSD	22	2.7%	-
8	MDMA(エクスタシーなど)	24	2.9%	-
9	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	92	11.1%	-
10	わからない	511	61.6%	-
	N(%ベース)	830	100.0%	

共通質問17:もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	使用をやめるように説得する	12,118	49.2%	53.9%
2	他の人(先生や友人など)に伝える	2,739	11.1%	12.2%
3	警察に通報する	2,115	8.6%	9.4%
4	医療機関や保健所等に連絡する	608	2.5%	2.7%
5	個人の自由であるので放っておく	2,129	8.6%	9.5%
6	わからない	2,585	10.5%	11.5%
7	その他	207	0.8%	0.9%
8	不明	2,119	8.6%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	22,501

2017年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問18:これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	警察の相談窓口	5,413	22.0%	-
2	行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)	2,338	9.5%	-
3	医療機関の相談窓口	3,707	15.1%	-
4	民間の支援団体の相談窓口	1,787	7.3%	-
5	知らない	15,050	61.1%	-
6	その他	29	0.1%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	

共通質問19:あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数回答可)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	薬物乱用による健康被害情報	11,671	47.4%	-
2	薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	8,520	34.6%	-
3	国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報	2,936	11.9%	-
4	医療機関や民間支援団体の取り組み情報	2,418	9.8%	-
5	特になし	6,140	24.9%	-
6	その他	99	0.4%	-
	N(%ベース)	24,620	100.0%	-

共通質問20:これらの薬物を手にいれることができると考えますか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	絶対不可能だ	3,392	13.8%	14.6%
2	かなり難しい	3,925	15.9%	16.9%
3	難しいが手に入る	9,049	36.8%	39.0%
4	インターネットなどで販売されているのを見かけたことがあり入手できる	677	2.7%	2.9%
5	所持・使用している人を知っている(会ったことがある)から入手できる	231	0.9%	1.0%
6	実際に入手する方法を知っている	211	0.9%	0.9%
7	わからない	5,729	23.3%	24.7%
8	不明	1,406	5.7%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	23,214

共通質問21:薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つに○)

NO	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	知っている	16,013	65.0%	68.8%
2	知らなかった	7,258	29.5%	31.2%
3	不明	1,349	5.5%	
	N(%ベース)	24,620	100.0%	23,271